



知っておきたい

松江市名誉市民



名誉市民章

松江市では、市民又は本市において縁故の深い方で、公共の福祉の増進や文化の進展に寄与した方を「松江市名誉市民」とし、その功績を称えています。現在24名の方にこの称号が贈られています。シリーズで1名ずつ紹介していきます。郷土の誇りとして、いつまでも私たちの心に刻んでいきたいですね。

第5回 中村 元氏 【1912~1999】(平成元年4月1日 顕彰)



(松江市勢要覧より)

松江市殿町で生まれる。昭和11年、東京帝国大学文学部印度哲学梵文学科を卒業。昭和18年に東京帝国大学助教授、昭和29年教授、昭和39年文学部長となり、昭和48年、東京大学を定年退官し名誉教授となる。同年、東方学院を開校し学院長に就任。その他、日本印度仏教学会理事などを歴任。インド哲学、仏教学、比較思想の分野で独創的な研究を行い学界に絶大な貢献をした。東洋思想研究の世界的権威である。

昭和32年、「初期ヴェーダーンタ哲学史」の業績で日本学士院恩賜賞受賞。昭和49年、紫綬褒章受章、昭和52年、文化勲章受章、昭和59年には、勲一等瑞宝章を受章する。

「仏教語大辞典」「インド思想史」「原始仏教」や「中村元選集」など多くの著作が刊行されている。

平成24年には、中村博士の生誕100年を記念して「中村元記念館」が松江市八束町に開館した。

編集にあたり、中村元記念館様にご協力いただきました。

ホーランエンヤの3つのお祭り

2019年5月開催のホーランエンヤは合計で9日間行われます。その祭は、渡御祭に始まり中日祭を経て還御祭で幕を閉じます。豊作や市民の幸福を願ってお祈りします。

5月18日(土) とぎよさい

城山稲荷神社から約10kmはなれた阿太加夜神社まで神様をお運びするお祭りです。



城山稲荷神社



阿太加夜神社



5月22日(水) ちゅうにちさい

字の通り、ホーランエンヤ真ん中の日に行われるお祭りです。この日は水の上ではなく、神社の境内で神様のために、踊りを踊ります。

5月26日(日) かんぎよさい

7日間のお祈りが終わって、とぎよさいで通ったコースを反対にたどって、神様がもとの城山稲荷神社にお帰りになるお祭りです。

島根図書館 松江市島根町加賀1414番地 (島根公民館併設) TEL (0852) 85-9088 E-mail: shimane@lib-citymatsue.jp

東出雲図書館 松江市東出雲町掛屋1139番地2 (東出雲ふれあい会館内) TEL (0852) 52-3297 E-mail: higashiizumo@lib-citymatsue.jp

CHIDORI No.104

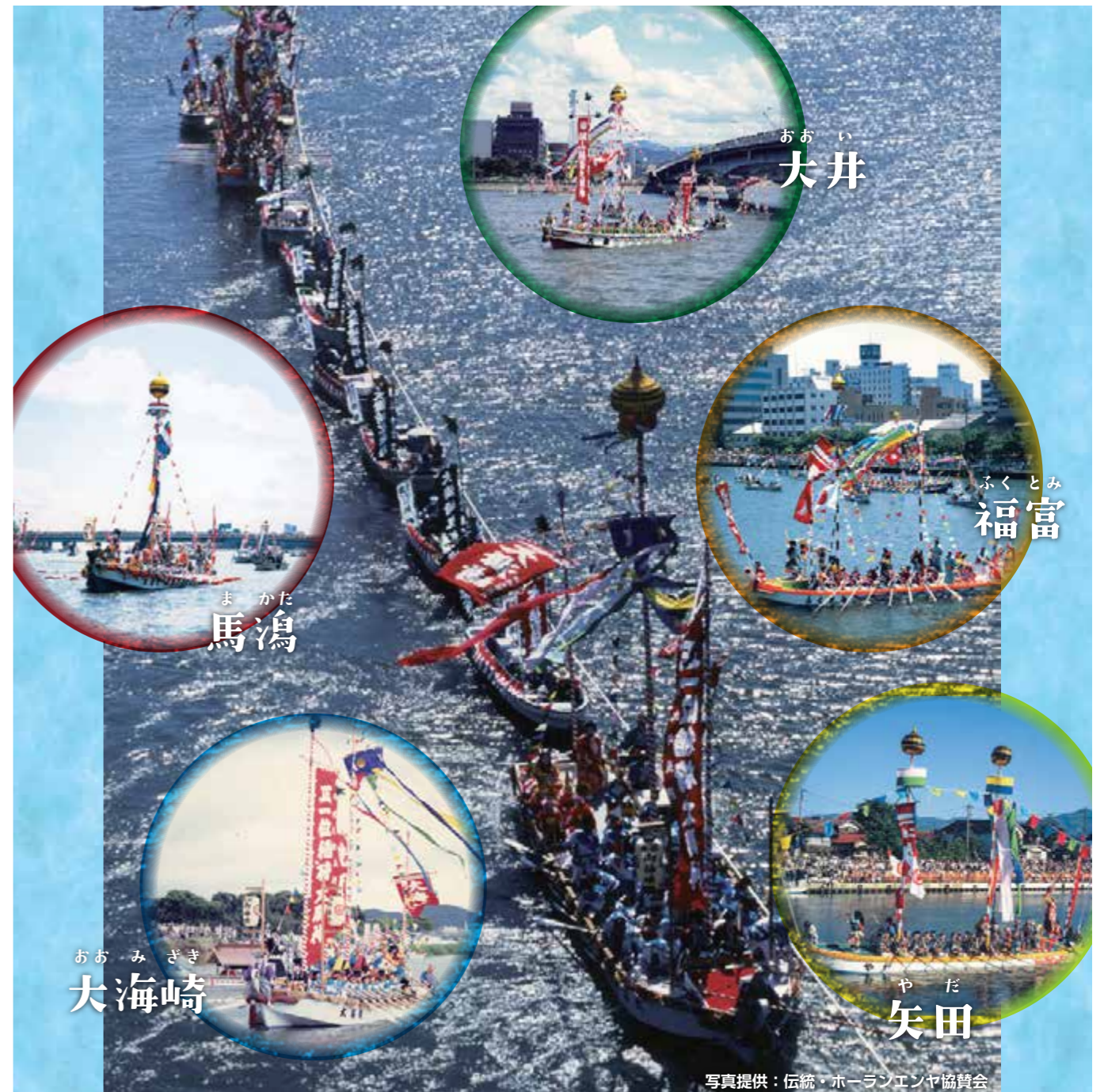
松江市立図書館報

編集・発行/松江市立中央図書館 〒690-0017 松江市西津田六丁目5-44

☎(0852)27-3220

2019年3月発行

https://www.lib-citymatsue.jp/ E-mail: chuou@lib-citymatsue.jp



おおい 大井

ふくとみ 福富

まかた 馬潟

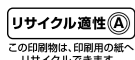
おおみざき 大海崎

やだ 矢田

写真提供: 伝統・ホーランエンヤ協会

内容

- 表紙 祭の船列と五大地権伝馬船
- 見開き 「ホーランエンヤ」 — 城山稲荷神社式年神幸祭 —
- 裏表紙 郷土の葉 松江市名誉市民シリーズ「中村 元氏」ホーランエンヤの3つのお祭り



印刷: 今井印刷株式会社

10年に一度の祭典 日本三大船神事

2019年
5月開催

ホーランエンヤ

松江城山稲荷神社式年神幸祭


ホーランエンヤとは

正式名称を「松江城山稲荷神社式年神幸祭」といいます。水の都松江が誇る船祭りです。現在10年に一度おこなわれています。

1648年、天候不順と、うち続く飢饉で人々が苦しむことに心を痛めた松江藩主松平直政公は、稲荷神社と阿太加夜神社の神主を兼ねていた松岡兵庫頭に、豊作を祈願するよう命じました。そこで、松江城内に祀られた稲荷神社の神様を、阿太加夜神社まで船でお運びし、お祈りをしたと


ころ、その秋は大豊作、大豊漁に恵まれました。それ以来、10～12年ごとにお祭りがおこなわれるようになりました。

1808年のお祭の時に、神様がお乗りになった船が突然の暴風雨に見舞われました。馬湯の漁師が助けに向かい、阿太加夜神社まで無事送り届けたことから、馬湯の船が、神様をお運びする手助けをするようになりました。その後、矢田、大井、福富、大海崎の船もお祭りに参加するようになり、この5つの地区は五大地と呼ばれています。




剣權

歌舞伎風衣装に、力士がつける化粧まわしや横綱のようなものを身に着けています。船の一番前のお立ち台で、剣をかたどった1m強の權をふりまわし、勇ましく踊ります。




水先

地区ごとに工夫を凝らした衣装を着て、船の先端に陣取っています。長い竹竿を操って、障害物をどかします。また、船が岸壁にスムーズに近づけるようにします。地域によっては「早助」とも呼ばれます。



權掻

乗組員の2/3近くを占める、權伝馬船の權をこぐ人たちです。「權方」「權漕ぎ」「權」とも呼ばれます。ホーランエンヤのかけ声とともに、權掻全員が息を合わせて權をこぎます。きれいに揃った權の動きは見どころです。



招待


「招き」とも呼ばれます。美しい着物に花笠をかぶった小学生4人が、この役を務めます。船の真ん中あたりで、観客に向かって笑顔で手を振ります。一番大きな馬湯の船だけに乗っています。



祭りのみどころ


權伝馬船

色とりどりに飾りつけられた「權伝馬船」と呼ばれる5艘の船には、それぞれ40～50人くらいの人に乗っています。船の上では權伝馬踊りが披露されます。すばらしい踊りだけでなく、唄や揃った權さばきなどにも注目です。




太鼓

頭には花笠や烏帽子をかぶり、色鮮やかな着物を着ています。唄にあわせて太鼓をたたきます。おもに小学生がこの役を務めます。




采振り

きれいな着物を着た女の人に見えますが、実は男性が女性の役をしています。船の後ろで樽の上に立ち、布や紙をつけた采と呼ばれる、竹の棒を振って踊ります。




練權

船の後ろのほうで、大きな權を動かして船の方向を変える舵取り役です。伝馬長の指示に従い、權伝馬船をコントロールしています。地域によっては「鱧權」とも呼ばれます。



伝馬長

乗組員の命を預かる權伝馬船の船長です。馬湯では「伝馬頭取」と呼ばれます。船の中央にいて、船が安全に運航できるよう乗組員に指示を出します。



音頭取り

ホーランエンヤの唄を唄う人です。地域によっては、「音頭」とも呼ばれます。音頭取りの唄にあわせて役者は踊り、權掻は權をこぎます。

写真提供：伝統・ホーランエンヤ協賛会

参考とした資料など

- ☆「日本三大船神事 ホーランエンヤ」 野津 龍 / 著 山陰中央新報社 / 発行
 - ☆「2009 ホーランエンヤ 感動記録集」 山陰中央新報社 / 編集・発行
 - ☆「ホーランエンヤ記念写真集・松江」 伝統・ホーランエンヤ協賛会・松江城山稲荷神社式年神幸祭奉賛会 / 発行
 - ☆「松江のホーランエンヤ」 松江市郷土芸能文化保護育成協議会 / 編集
 - ☆「ホーランエンヤ2019公式ホームページ」
 - ☆「こども広報まつえ No.12(平成21年3月発行)」
 - ☆「図書館報「ちどり」No.34(平成9年春号)・No.79(平成21年春号)」
- 編集にあたり、伝統・ホーランエンヤ協賛会様にご協力いただきました。

